

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報

2019年
8月号



発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 小南 晃

印刷所
文明堂印刷所

キリスト、喜びます また、会いにゆきたくなくなるクリスチャン

司祭 マルコ 藤井 尚人



いことには何も始まらないことは、神の愛されたこの世界(ヨハネによる福音書3章16節)の現実です。かのマザーテレサの修道会も、若いシスターの召し出しが減った時期がありました。その時、マザーはこう言いました。「人が集まらなくなったら、何とかして集めようとするのではなく、自分たちが人々にとって何者であるかを、確かめなさい」。

人が来ない

「信徒減少」「礼拝がさみしい」「献金も減少」、聞き飽きた感のある嘆きの言葉ですが、教会に限らず、学校でも学生数はいつも話題の中心です。「少数でもホンモノのクリスチャンを」という言葉にも頷く点があります。が、やはり、人が集まらな

お客がさっぱり来なくなった、老舗の蕎麦屋

「最近の客は蕎麦の味が分

からなくなつた」。果たしてそうでしょうか。あるいは「そんなじゃ、食後のコーヒーでも付けようか」。これもダメですね。大事なことは、肝心のお蕎麦の味をいつも美味しくしておくこと。そして、自分の本業は何なのか、目の前のお客さんが、この蕎麦屋に何を求めているのか、それを、常に探し求め続けることです。そして、常連のお客さんは、いそいと、その蕎麦屋に足繁く通い続け、うまそうにお蕎麦を食べること。そうすれば、新しいお客さんは、少しづつでも増えてゆくものです。

子どもが

全然なつかない、幼稚園や学校の先生

「自分は良い先生、なつかない子どもに問題がある」。

ふう。では、このように考えることはできないでしょうか。「自分が目の前の子どもたちはどう見られているのか、なつかないのは、必ず、子どもなりの理由がある」。この点に気づいておられる先生は、いつも新しく自分を変えてゆくことのできる先生です。結果、そのような先生には、子どもたちは信頼を寄せ、次第になつくようになります。

また、会いにゆきたくなくなるお坊さん

神戸聖ヨハネ教会の近くに1100年以上の歴史を持つ名利須磨寺が建っています。その須磨寺で今年の6月に開催されたイベント、名付けて「H(法話)1・グランプリ」また会いにゆきたくなくなるお坊さん」。開催を企画された小池副住職(32)は「私の同世代は、幼い頃のオウム事件などで宗教へのアレルギーがある人もいるが、実は、パワースポット巡りなど、仏教への関心は高い。お寺も変わらねばならない。そして、生老病死

に寄り添う教えをもっと伝えたい(神戸新聞より)」。ちなみに、チケット400席(1,500円)は申し込みが殺到、2日で完売しました。

ワイリアムス主教の遺言

「今日、信者大変少ない、いかで教会に来ません。会衆少ない、牧師、失望します。説教力ありません。貴君方、ひとりがひとり連れて来ます宜しい。さすれば、ひとり二人、三人四人、そうして、この会堂一杯、満ちましよう。牧師、励みます。基督、喜びます。」これは、ワイリアムス主教が日本の教会に残された最後の言葉です。遺言と聞いていいでしょうか。さあ、私たち一人ひとり、出会った人が、また会いにゆきたくなくなるようなクリスチャンになりましょう。そうすれば、教会に人が来る、会堂満ちる、キリスト、喜びます。

神戸聖ヨハネ教会牧師・
神戸松蔭女子学院大学
チャプレン